

関高FRH情報 第24号

令和2年9月29日(火)

FRHプロジェクト委員会

今回は、全国高等学校郷土研究発表大会最優秀賞の報告です。

◇ 公共・政策、ポスターセッションの2部門で最優秀賞を受賞しました！

主催： 都道府県高文連郷土研究部会 後援： 全国高文連
趣旨： 高校生による郷土研究や社会科学的な実践報告を発表する全国大会として開催
審査： 2020年8月に論文・ポスター審査を実施（感染症対策のため大会は中止）
受賞対象

- 公共・政策部門最優秀賞 「関鍛冶を未来へ！プロジェクト」
～探究活動の成果を生かしたまちづくりの構想～
- ポスターセッション部門最優秀賞 「明智光秀と関市のつながりを追って」

◇ 受賞の経緯と今後

■少子化が進み、高等学校の生徒数・クラス数が減少する中、全国で郷土研究を行っている部活動の数は激減しています。本大会は、全国各地で郷土研究を続ける団体のネットワークを維持・拡充するために、全国高文連の後援を受け、開催地の都道府県高文連が主催するかたちで運営されています。

今年度は岐阜県が担当であり、県内でプレゼン大会やフィールドワークが開催される予定でしたが、感染症対策を第一に考え、論文及びポスターによる審査が行われました。

■地域づくりは、まず、地域の自然や歴史を知るところから始まります。全国の郷土研究系部活動に所属している高校生は、地域づくりの最前線で、地道な研究を重ねています。本校では、昭和30年代から40年代にかけて、赤土坂遺跡（岐阜県初の旧石器遺跡）や陽徳寺古墳群（須恵器の標識遺跡）の調査などで知られる社会研究部が、全国をリードする輝かしい活動を続けていました。2010年、地域研究部に名称を変更し、郷土の先人や歴史資料の調査を行い、全校高校生歴史フォーラムや日本考古学協会高校生ポスターセッションにおいて、研究の成果を全国に向けて発信しています。



■本校地域研究部の活動の特徴は、地域連携にあります。関市や富加町、飛騨市と連携した研究を行い、学びの成果を広く一般に広める活動も続けています。今回の受賞作品のうち「関鍛冶研究」は、関市商工課及び加治田刀剣と連携した「せきの未来・社会貢献プロジェクト」の成果の一部を発表したものです（FRH情報8号2020）。また「明智光秀研究」は、関市企画振興課と連携したプロジェクトの一環として行ったものであり、本年度12月19日（土）に、関市立図書館で研究を成果を発表する予定です。



写真上： フィールドワーク（研師伊佐地氏工房にて）

写真下： 受賞報告（本校校長室にて）